



提供：長崎新聞社

高校生代表 歓迎のことば

「長崎が君の鼓動で熱くなる」

「二〇〇三年 長崎ゆめ総体」に、ようこそおいでくださいました。

みなさんは、厳しい練習に耐え、激戦を勝ち抜き、この長崎ゆめ総体に参加されています。その喜びあふれる鼓動が伝わってきます。

私たち長崎県の高校生は、「一人一役」を合い言葉に、全国から訪れるみなさんを最高のおもてなしで歓迎しようと準備してきました。今日は、みなさんの高鳴る鼓動が聞こえるようで、一段と熱いものを感じます。

私たちも明日からの競技を通して、さらにたくさん感動を共にしたいと願っています。

ここ長崎県は、海と山に囲まれた自然豊かな土地ですが、十三年前には、雲仙・普賢岳が噴火し、大変な被害を受けました。しかし、全国のみなさんからの温かいご支援で、力強く復興することができました。ありがとうございました。

また、長崎は被爆地として、世界に平和の尊さを訴えています。この長崎ゆめ総体が、スポーツを通して、友情の輪を広げ、平和の意義を感じていただける大会になれば幸いです。選手のみなさんのご健闘を祈り、歓迎の言葉といたします。

ゆめ総体を終えて 感動をありがとう

私はまず、五十年に一度というまたとない機会の長崎ゆめ総体に、「一人一役」という形で関わる事ができた事を大変嬉しく、また誇りに思います。

この「一人一役」という仕事を通して、私は大きな一つの事を皆で成し遂げる喜び・お互いに協力し合う事の大切さを学ぶ事ができました。これは私だけに限らず、長崎県の高校生全員が感じた事だと思います。協力することで、高校生の友情はとても大きなものとなり、さらにはそれを全国にまで広げました。これは本当に素晴らしい事だと思います。

あの真夏の太陽の下、どんな時にも笑顔絶やさずに応対する高校生の姿は、選手たちの素晴らしいプレーと同じく、見る人に感動を与えることができました。この大会が大成したのも、高校生全員の地味だけれども必要不可欠な仕事をする人がいたからだと思います。参加しているみんなのあの笑顔の美しさは今でも心の中に残っています。

私たちのためにご指導くださった先生方をはじめ、多くの方々の応援の声や協力と、私たちに一回限りの貴重な体験をさせていただいたことに、心から感謝しています。

でっかい「ゆめ」をもとう

自分だけの「ゆめ」を

自分を信じて

輝く明日を思い描こう

でっかい「ゆめ」をもとう

みんなでかなえる「ゆめ」を

手を取り合って

みんなの思いをひとつにしよう

